

# 紀南教会瓦版

発行所  
紀南キリスト教会  
紀南教会瓦版  
編集委員会  
和歌山県田辺市  
下屋敷町80  
TEL/FAX  
0739-25-1191



今夏は大変な暑さでしたが、お元気でおられましたでしょうか。二〇一〇年最後の三十数日になりました。あの暑いほど暑かった日も遠くなり、今は紅葉の季節です。秋は駆け足で過ぎていきます。巷ではクリスマス風の曲が流れています。一年の過ぎるのは早いですが、二〇一〇年最後の瓦版をお届けします。編集員一同

## 想うこと

カレンダーが残すこと二枚となり、一年の過ぎるのが早く感じるこの頃。フット見渡せば、すっかり秋が深まっている。久しぶりに夫と護摩山の紅葉を見に出かけた。平日だったが、かな

りの人達が爽やかな秋晴れの中、紅葉を楽しんでいた。山の木々は満身の力を込めて染め上げた様に鮮やかに萌え盛り、言葉で言い尽くせない雄大さに圧倒され、その感動に思わず「この自

ではなかるうか・・・と考えさせられた。それに比べて自然は大らかで、優しく私達を包んで、また勇気を与えて力をくれる。きつと神さまのプレゼントなのだと思ふ。教会を知り聖書に触れ、全て神様が準備して下さっている。時には迷った

を覚え、他人や自分に少しづつ優しくなれてきたから・・・なのだと思えます。 H・K



## アレルギー(Allergie)

アレルギー。最近特に良く耳にする言葉です。何かにつけてアレルギーという言葉を使っているように思

りましたが、プリンスメロンの症状はきついです。値段のお高いマスクメロンの方が症状が少し穏やかです。でも食べます。生のイカ、生の蛸は触ると痒い。調理をする時はゴム手を使います。でも食べても何事も無いので食べます。野菜では茄子、ホーレン草等。茄子やホーレン草を茹でてから絞ると手が痒い。でも食べます。触ると手が痒くなるのに口の中に入れても何事も無いから食べます。好きだから。しかし里芋の皮をむいても全く痒くならない。どうしてでしょう。里芋の皮を剥くのを嫌がる人が多い様に思いますが、私は平気で剥けます。痒くないです。そして化粧品も然りです。ウツカリ他のメーカーに浮気しようものなら、そのしつべ返しは怖いんです。日焼け止めも使用すると大変な事になるので全く使えません。でも何回も言いますが、何と云ってもトマト。食べたその日は、一日中気分が悪いです。やはりアレルギーなのでしょう。うか？それとも子供の頃のあの経験がトラウマになっているのでしょうか。 人不知

## ゆるす

紀南キリスト教会牧師 上山耕司

「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してください。あなたもそうしなさい。」(コロサイ三：一二-一四)この聖書は、『互いに忍び合い...赦し合いなさい。』と語っています。忍ぶとは、我慢出来ないことを我慢するということです。また、不満を持つことがあると認めただ上でお互いに赦し合いなさい、と教えているのです。しかし、私達は「ゆるす」ことの大切なことはよく分かる

のですが、その難しさもよく経験するのです。ある人が幼なじみから大人になって「子供の頃、お前にいじめられたことをす

く、莫大なエネルギーがいったことであるう、と思えます。一般にはそのような辛い出来事があっても子供から大人になっていく中

からでしょうか。では私達はどうしたら恨むことにエネルギーを使うのではなく「ゆるす」ことが出来るのでしょうか。一つには「その人を理解しようとする」とです。私達が相手をゆるすことが出来ない理由の一つは、相手が何故そうするのか、そのうしたのかを理解出来ないからです。しかし、その人の背景をよく知ったならば、なるほどそうするのも仕方がないという思いになるものです。不思議なもので、

もう一つは、自分がゆるされる経験をする事です。私達は、人の過ちはよく見ゆるのですが、自分のことはなかなか見えないものです。自分はきちんとしていて、だからこれぐらいは仕方ないとゆるして、相手に厳しく要求してしまふものです。もし本当に自分がゆるされていることが分かったら、自分だって同じ過ちをしてきたんだから、相手をゆるそう

という気持ちになれるのです。聖書の「主があなたがたを赦して下さいように」という言葉は実に大切な言葉です。「ああ、神さまはこんな未熟な自分勝手な者をゆるすために、愛する御子を十字架に付け、私の身代わりとして下さった。私を愛する子と呼んで下さる。それなのに、どうして私は自分に対して罪を犯す者をゆるせないと考えるのだろうか。」この神にゆるされる経験こそ、わたしたちを「ゆるす」へと向かわせる源となるのです。教会の

しるしは十字架です。教会の十字架は神のゆるしを現しています。聖書は「イエス・キリストの十字架は、あなたがたを赦すためのものだ」と告げています。

この欄を書く毎に、二〇〇四年二月の創刊以来丸七年間、毎号寄稿いたたく上山牧師はじめ多くの方々の篤い思いと苦勞に唯々頭が下がります。かわら版も次号から八年目に入ります。二九号は二〇一一年二月七日発行予定

